

平成27年度事業報告

理事長 田中 一雄

● 更なる飛躍を目指して

JIDAは、これまで組織活動の活性化を目指し、対外的存在感の強化と対内的活動価値の向上を推進してきました。特に、広報のデジタル化と充実、アニュアルレポートの発刊、雑誌媒体への登場、DM活動のアワード化などに注力し、その定着化を図ってきました。このような改革の結果、ある程度の効果を上げることはできたと思います。しかし、平成27年度の活動総体としては、やや低調であった感は否めません。正会員数500名余りという状況は、微減しつつ近年大きく変化してはいません。また、賛助会員は一時期の100社から80社あまりと減少傾向が見られます。また、活動面においても、各委員会やブロックの活動は、比較的穏やかであったと言えるでしょう。こうした状況下、平成27年度においては、JIDAの「リ・ブランディング」を課題として各種の公益活動を中心に進めてきました。以下に、各委員会とエリアの活動概要を振り返り、今後の活動の糧としたいと思います。

・内務委員会

総務部会においては、協会運営上の課題対策が積極的に検討された。主な課題は、学生会員会費の見直し、JIDA商標登録など。また、必要とされる規程・規則類の見直しを継続的に行った。財務部会においては、財政基盤強化策を重視し、予算策定につなげた。

・広報委員会

情報委員会においては、JIDAの存在感強化策として一般に広くセミナー等の公益活動情報を広報するWebサイト及びWebマガジンの充実化とその運営、公式Facebookを通じた広報活動を行った。価値ある情報とタイムリーなアップデートが課題であるが、一歩ずつ改善を進めている。

出版部会では、昨年度に引き続きアニュアルレポートの発行を行うとともに、新たに冊子Face Letterを作成し、会員同士のスムーズな情報交換と顔の見える関係づくりを図った。

・渉外委員会

本年は、日台韓のインダストリアルデザイナー団体の連携による学生国際ワークショップ(ADA)の韓国開催がMERSの為に中止となったことが、活動を大きく縮小させる原因となった。しかし、アメリカCCS副学長を招いてのセミナーや、デンソーの企業訪問などは一般の参加者が多く成功裏に終えることができた。また、国際活動は引き続き充実しており、韓国でのICSID総会参加や、中国との各種交流活動などが展開された。今後は海外向けJIDA活動紹介ツール整備が必要となっている。

・ビジョン委員会

今後のJIDAの歩むべき方向を明らかにすることを目的に、各委員会横断的協議機関としてスタートし3年が経過した。「JIDAフォーラム、サービス、アワード、ブランド」を4本の柱とし、JIDAの存在感向上、ブランド力アップを推進した。一昨年度に好評を博した「デザイン思考フォーラム」は、一般参加が多かったものの残念ながら本年は一回のみの開催に留

まり課題を残した。

- ・職能委員会

本年は、知財問題を主題とした活動が中心となった。「デザイン保護最前線」をテーマとしてセミナーを実施する他、日本弁理士会意匠委員会と共同し研究会を3回に亘り開催した。

- ・スタンダード委員会

過年度に引き続き、スタンダードサンプルやキッズデザインツールの頒布などを実施した。新たなサンプル帳として3Dプリンタ関連の新企画を進めていたが、諸事情で中止となったことは残念であった。また、セミナー部会では、各種素材に関する勉強会を実施しているが、27年度は2回に留まった。キッズ部会では産総研との共同研究を推進し、一般に頒布をしているキッズ3DツールがPVC DESIGN AWARD 2015において優秀賞3点の一つに選定されたことは喜ばしいことであった。

- ・デザインミュージアム委員会

ミュージアムセレクション事業においては、本年も充実した活動を展開し、選定品の質・量ともに着実な向上を見せた。また、セミナーの実施や、信州新町での事業展開を行ったが、今後のミュージアム存続が課題となっている。一方、香港 M+との契約に基づき、歴史的プロダクト収集事業が実施されたことは大きな成果となった

- ・教育委員会

27年度は、PD 検定・PD 教育・若手交流の三つの活動を行った。特に4月に出版された「プロダクトデザインの基礎」に基づき新たな検定問題の充実を図った。これによって資格付与事業に関わる出版協力は一定の作業が終わり、次のステップを検討する時期を迎えたこととなる。資格付与検定制度の普及拡大は、重要課題であり抜本的改革を含めた活動が必要となっている。

- ・東エリア

最大規模のエリアとして、センター活動とも連携し、活発な活動を行っている。特に、人材育成のエコデザイン展活動や、ギフトショーへの出展は毎年高い成果を上げている。また、JIDA ギャラリーの運営も行っており、各種展示会が開催された他、壁側のみを利用した展示方式として「カベテン」を作成し一般来訪者の増加を今後に繋げた。

- ・中エリア

中部ブロックでは、昨年に引き続き、数多くのセミナー、ワークショップ、研究会、交流会を開催するとともに、デザイン大学卒業制作展を訪問し表彰活動を行った。また、ブロック設立40周年事業準備委員会を立ち上げ、着実な準備を進めている。また、北陸ブロックにおいても、各種交流会や勉強会を開催する他、中部ブロックと連携した卒業制作賞の検討を推進した。

- ・西エリア

東に次ぐ規模となる関西ブロックにおいても、数多くのセミナー、ワークショップ、研究会、交流会、見学会などが開催された。その結果、事業目標を上回る活動を収めることができた。西日本ブロックは、対象地域が広範囲に亘る中、引き続き積極的な交流活動を展開した。しかし、両ブロックともに、会員の高齢化が課題となり、今後の会員強化が必須となっている。

このような多様な活動を通じ JIDA は、インダストリアルデザインの職能を基盤に「ビジョン発信、ネットワーキング、セミナー開催、資格付与、ミュージアム活動、研究調査、職能支援、人材育成、社会貢献」などの活動を続けています。今後とも、会員と社会に必要とされる JIDA を強化推進しよりインダストリアルデザインの普及・啓発を力強いものとしていかなくはなりません。